

vol.53-12 (通算 609号)

2024年3月号

# やどかり

2024年3月15日発行

(毎月1回15日発行)

1987年12月19日第三種郵便物認可

発行人 公益社団法人やどかりの里

代表者 増田 一世

〒337-0043 さいたま市見沼区中川562

TEL 048-686-0494

FAX 048-747-7030

URL <https://www.yadokarinosato.org/>

定価 50円(含会費)

## やどかりの里 2023年度総括会議報告

やどかりの里総括会議を2月3日に開催した。会場には46人(内18人はメンバーと家族、オンライン参加者含む)が集まり、丸一日かけて1年間を総括し、次年度に向けた意見を出し合った。

2023年度は「総括所見(勧告)を実践に活かした活動づくり」を目指し、5つの活動方針を柱に取り組んできた。総括会議では、各方針に沿って報告が行われ、報告ごとにグループ討議を行い、話し合いの時間を重視した。本稿では、トピックスを中心に報告する。

### 1. やどかりの里の1年を振り返る

障害分野では看過できない根深い人権問題があり、優生保護法被害裁判や生活保護違憲訴訟裁判、滝山病院事件など、やどかりの里でも情報共有し、関わってきた。また、障害福祉ビジネスの広がりや常勤換算方式による障害者支援の専門性の低下など、社会福祉実践の課題について冒頭で共有した。

#### 1) 精神科医療

4月にドキュメンタリー映画「夜明け前のうた」の上映会を開催し、延600人超が来場。終わっていない精神科医療の問題を社会に訴えた。しかし、滝山病院事件など精神科病院での虐待事件も明らかになり、未だ「形を変えた私宅監置」とも指摘される積み残された精神科医療の課題も突き付けられた。

#### 2) 法人会員や利用者を広げること

法人会員の減少、利用者の減少についても話し合われた。法人会員はやどかりの里を支える基盤であり、基盤を厚くする取り組みの

必要性を確認した。

また、メンバーや家族からはやどかりの里につながることで、回復し新たな生き方を見出してきたことが語られ、やどかりの里の活動の重要性を確認した。未だ孤立して、必要な支援につながっていない障害のある人や家族に必要な情報を届けるために何ができるのか、前向きな提案があった。

働く場を中心にキッチンカーの導入による地域イベントなどへの参加が活発に取り組みされたことを振り返り、次年度に向けメンバーや地域のニーズを考慮した働く場の再構築の検討が予定されていることを確認した。

### 3) 地域とのつながりを豊かに

「未来を拓く つなぐ・つくるプロジェクト」では、活動拠点として「エシカルCafé としょかんのとなり」を開設し、地域のイベントに積極的に参加した。さらに地域とのつながりや関係性を築くために地域巡回に取り組んだ。

## 2. やどかりの里の今後について

やどかりの里の財産は人であり、これまで培ってきた価値をどのように発信するかなど、さまざまなアイデアが寄せられた。課題となっている財政問題への対応も含め、次年度の活動計画につながる意見が多数出された。

職員・メンバー・家族で構成された各グループでは、活発な意見交換が行われ、新たな提案や大切にしたいことについて共感の輪が広がるなど、まさに対話と共感を大切にすやどかりの里らしさを体現する会議となった。